株式会社 ポップ工芸

発泡スチロールとガラス繊維で立体造形物を作製

海外発注可
納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンリーワン技術

発泡スチロールにＦＲＰ加工を施して作製する立体造形物

業務内容
本物以上のリアリティーを追求し表現する

街頭を彩る看板。中でも特に目立つのが、立体構造の看板である。昭和61年に看板屋を立ち上げ、平成20年から立体看板を専門に手がけている。発泡スチロールにＦＲＰ（繊維強化プラスチック）加工を施し、立体看板を作製する。ほかにも、イベントで使われるキャラクターのモニュメントや創作家具、店舗装飾など、あらゆる立体造形を手がける。ひとりの職人がひとつの造形物の設計から完成までを一貫して担う。加工や塗装に工夫を施し、本物以上のリアリティーを追求する。職人の魂がこもる作品が、多くの人の心をつかんでいる。

体験教室で子供たちが作った造形物

強み
多彩なサイズ対応と良質な製品作りで顧客満足を獲得

得意としているのは巨大な造形物の作製。「トラックに積める範囲内という制限はあるが、どんな大きな作品にも対応できる」と中村雅英社長は胸を張る。造形彫刻や塗装の高度な技術を備えた職人が手がける作品のクオリティーは高い。ヘルメットの材料としても使われるＦＲＰを、発泡スチロールの表面に貼り付け、壊れないよう強度を上げる。その表面を丁寧に色づけすれば、本物の銅像や木材のような質感を表現することができる。また、店舗の開店やイベントの日程に合わせた迅速な納期対応を心がけ、顧客の要望に応える意識を欠かさない。

地域貢献
体験教室や創作活動の場の提供を通して地域に貢献

広告代理店の依頼で、子供たちに人気のキャラクターを作る機会も多い。製作工程に興味を抱く人もいる。多くの人が造形に触れ、興味を持ってもらえる機会を作りたいとの思いから、月に一度の頻度で無料造形教室を実施している。子供、大人にかかわらず、毎回4-5人を作業場に招き、立体造形作りを体験できるという。また、体験教室以外でも作業場を地域の住民や大学生に解放している。地域のイベントや大学の学園祭などで使われる造形物を作りたいとの声を受け、創作活動の場所を提供するという形で地域に貢献している。

今後の展望
新技術の導入と、職人技術の共存を模索

現在、立体造形の作製はすべて手作業によるものだが、中村社長はいずれ３Ｄプリンターの台頭を予想している。「5年後くらいには、巨大な立体造形を作れる３Ｄプリンターが普及し、職人の需要がなくなるかもしれない」という。時代の変化に対応するために、小型の３Ｄプリンターを導入した。職人が使い方を体験し、将来も生計を立てられるように対策を講じている。一方で、手製の造形物の良さはアジアを中心に海外にも広がりをみせている。さらなるクオリティーの向上を目指し、遊び心を盛り込んだものづくりを今後も続けていく。

COMPANY PROFILE　株式会社ポップ工芸

大阪27

当社の歴史

昭和61年に看板屋として単身創業しました。当初は一般的な平面看板を作っていましたが、あるとき立体看板の依頼が舞い込み、手探りで完成させました。見た人にインパクトを与え、何のお店なのかが一目でわかる立体看板。この経験がきっかけで、今では立体造形ひとすじです。

一般的な平面看板よりもインパクトの強い、巨大立体造形看板を専門に手がけています。

代表取締役 中村 雅英さん

■主な事業内容
立体造形物の作製・企画

■主な取引先（納入先）
広告代理店、イベント業者、店舗設計事務所、看板業者

住　所／〒581-0875
八尾市高安町南6-2
ＴＥＬ／072-928-0444
ＦＡＸ／072-928-0445
創　業／昭和61年4月
設　立／平成20年2月
資本金／700万円
従業員／5名

http://www.zoukeikanban.com